

近年とみに、消防の分野における国際協力が活発化しつつある。国際消防救助隊のエルサルバドル地震災害に際しての活躍振りは広く知られているところだが、そのほかにも諸外国との間で着実な進展がみられる。

私は幸いにして、消防庁在職中にブラジルとインドネシアに赴き、消防協力の一端を担う機会を得た。ブラジル消防の熱烈な歓迎と我が国の技術を吸収してラテンアメリカの消防訓練のメッカたらしめる熱意には痛く感激したし、インドネシア消防の組織、消防力、教育訓練等全般的な協力要請に対しては使命感をもって息の長い指導を約束したところだ（インドネシアに対してはハシゴ車の無償援助の案件の調査も行い、援助のしっぱなしにならないことにも随分気を使った）。

このほか、シンガポール、中国、バングラディッシュでも二国間協力のための消防専門家が派遣されている。また、

消防行政集団研修コースでは、すでに37ヶ国186名の消防研修生を受け入れており、各国の要望に応え、今年度からは、救急救命技術研修コースが新設された。

これら消防協力は、経済的利害が絡まず、生命、財産を守るという純粋な目標をもって

いる。しかも、消防技術は各国共通な面が多く技術移転が他の分野に比べて比較的容易だといえる。国境を越えた消防人同志の

連帯意識も極めて強く、相手国から大いに歓迎されているところだ。これは、消防協力に携った私自身の実感でもある。

ところで、上述の協力案件は、いずれも相手国の要請に端を発したものであり、その意味で我が国消防は受け身の立場にあったといえる。しかし、我が国の国際的地位にかんがみれば今後ますます開発途上国に対する経済援助は増加するにちがいない。そのような中であって、上記のような成果をあげている消防の分野で、技術協力、無償援助、借款といった様々な形態での協力案件を増加させていくべきであろう。わが国消防は、それに対応する実力を十分に備えているのである。

こう考えると、わが国消防としては、受け身の立場から脱却し、積極的に協力案件を開発するという考え方に立つべきではなかろうか。そのためには、発展途上国の消防事情に関する情報バンクを持つべきだし、さらには世界を股にかけて活躍する消防国際協力コンサルタントといったものを消防界あげて設立する必要があると考える。

随 想

消防国際協力の 一層の進展をめざして

山 越 芳 男

東京湾横断道路株式会社顧問
前消防庁次長